

# 第2回 幼保小連絡会の

## まとめ

＝ 17小学校区における話し合い＝

日時：平成31年(2019年)

1月17・21・22・25・28日実施

会場：17会場…小学校・認定こども園・幼稚園・  
保育所(園)・児童発達支援センター



小学校区	桜南塚塚	熊野田丘	中豊島	豊島西	豊原北田	小曾根北	内田田	南西成	豊高南川
開催日時	1月28日(月) 15:00~16:15	1月17日(木) 15:30~16:45	1月25日(金) 15:30~16:15	1月22日(火) 15:15~16:15 (14:30~15:00見学)	1月21日(月) 15:00~16:15	1月25日(金) 15:00~16:15	1月21日(月) 15:00~16:15	1月21日(月) 15:00~16:15	1月22日(火) 15:00~16:15
メインテーマ	「つなげよう 子どもの育ち～幼児期の終わりまでの育ってほしい姿をみずえて～」								
サブテーマ	自分の気持ちや相手をにどうやって言葉で伝えるか～コミュニケーション力の高めるために～								
会場	幼保小の連携支援の引き継ぎ	言葉によって伝え合い友だちと仲よく、主体的に心豊かに過ごす子供を育てる	中豊島小学校	豊島小学校 (見学…総務幼稚園)	豊島北小学校	北条小学校	野田小学校	せんなりこども園	高川小学校
司会	桜塚小学校	熊野田小学校	中豊島小学校	豊島西小学校	ひかり保育園	小曾根小学校	野田小学校	庄内南小学校	音大付属幼稚園
記録	桜塚小学校	熊野田小学校	ゆたか保育園	豊島西小学校	豊島北小学校	小曾根小学校	野田小学校	千成小学校	豊南小学校
発表校園	認定こども園 あけぼの幼稚園 てらうちこども園	各幼保こ小	認定こども園 豊中ほつみ保育園 認定こども園 あけぼの幼稚園 てらうちこども園 取部こども園	認定こども園 穂積幼稚園 てしまこども園	認定こども園 穂積幼稚園 てしまこども園 原田こども園	小曾根こども園 高川こども園 てらうちこども園	認定こども園 野内こども園 野田こども園 島田こども園 くりのみ幼稚園	認定こども園 栄町こども園 庄内西こども園 庄内こども園 せんなりこども園 認定こども園 庄内こども園	認定こども園 幼保連携型認定こども園 ほつみ子ども園 豊南西こども園 豊高南川こども園
幼稚園	豊中幼稚園 東邦幼稚園 曾根幼稚園	東邦幼稚園 東豊中幼稚園	取部幼稚園 取部幼稚園 取部みどり幼稚園	こうつしま幼稚園	超光寺幼稚園 曾根幼稚園 こうつしま幼稚園	小曾根幼稚園 取部みどり幼稚園	こうつしま幼稚園 くりのみ保育園 わかば保育園	庄本幼稚園	ラ・サンテ幼稚園 大阪音楽大学 付属音楽幼稚園
保育所(園)事業 所内保育事業 小規模保育事業施設	とうほう保育所 さくらづか保育所 ゆたか保育園 豊中ひだまり保育園 中塚塚ひだまり保育園 HOPPA北塚塚	くまのた保育園 おひさま保育園 旭丘かいせい保育園 あい保育園西泉丘	豊中あけぼの保育園 あけぼのふんぶんゆたか保育園 ひかり保育園 あい保育園寺内 ほつみ絵本の森保育園	てしま保育園 夢の鳥保育園 ほつみバブー保育園 にっこりこぶき園 トジャーカーキッズ ふれあい緑地保育園 アスグザン南保育園	ひかり保育園 おひさま岡町保育園 トジャーカーキッズ ふれあい緑地保育園 アスグザン南保育園	くりのみ保育園 わかば保育園			
児童発達支援センター				しいの実学園					
交流の実践事例	桜塚小学校	泉丘小学校	寺内小学校	ほつみバブー保育園	原田こども園	北条小学校	島田こども園	千成小学校	ほうなん子ども園 豊南西こども園 豊南小学校

A-1 みなさんよろしくね I ～せんせいやともだちのなまえをおぼえよう～ (1/6時間)		
目 標	・先生や学級の友達に自己紹介をしたり、自己紹介を聞いたりしながら、友達の顔や名前を覚え、新しい人との出会いの楽しさを味わう。国語・学級活動	
評価基準	・自分の名前をはっきりと伝え、自己紹介をしようとしている。国語[国語への関心・意欲・態度] ・友達や先生の自己紹介を聞いたり、自己紹介をしたりすることで進んで集団活動に取り組もうとしている。学級活動[(1)一ウ学校における多様な生活集団の向上]	
準備物	CD(「てとてであいさつ他、園で歌っていた歌など) CDデッキ	
	保育所・幼稚園等で経験してきたこと	経験を踏まえた指導の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの前で自己紹介をする。</li> <li>・楽しかったことや頑張ったことをみんなの前で発表したり、みんなの話を聞いたりする。</li> <li>・わらべ歌遊びでいろいろな人とペアになる。</li> <li>・年下の新入児の名前を尋ね、身の回りの手伝いをしたり、一緒に遊んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前に自己紹介をした経験を思い出すよう声をかけ、自信をもって自己紹介できるようにする。</li> <li>・幼児期の様々な経験から、得意な事や好きな事を既に意識している児童が多い。その気持ちを大切にしながら、自分の特徴を伝えたい。友達のことを知りたいという思いを引き出すようにする。</li> </ul>
主な学習活動	◎教師の支援 ○児童の意識の流れ・予想される発言	★評価規準(評価方法)
	<b>せんせいやともだちのなまえをおぼえよう</b>	
1. 先生の自己紹介を聞き、自己紹介の仕方を知る。 先生に自己紹介の仕方をデモンストレーションしてもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「私の名前は～です。好きなものは、～です。」</li> <li>◎教師がデモンストレーションをして自己紹介の仕方を示す。</li> <li>◎自分の名前がはっきり伝わるよう、口を大きくあけて話すようにする。</li> <li>◎言える児童は何か一言付け加えて言うことができるよう、いくつか例を挙げておく。</li> <li>・好きなもの・保育所や幼稚園の名前・1年生になってしたこと・得意なことなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 自分の名前をはっきりと伝え、自己紹介をしようとしている。(行動観察)</li> <li>★ 友達や先生の自己紹介を聞いたり、自己紹介をしたりすることで進んで集団活動に取り組もうとしている。(行動観察)</li> </ul>
2. 自己紹介をしたり、自己紹介を聞いたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○僕の名前は～です。好きなものはいちごです。一緒にだ</li> <li>◎どの児童も言えるように、みんなの前か自分の席で言うのが児童が選べるようにする。</li> <li>◎みんなに言えたという気持ちを大切に、評価する。</li> </ul>	

# 蛭池・刀根山小学校区

【参加人数】 小学校(8)名 こども園(3)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター( )名  
小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1、 基調とした発表

基調とした発表はありません。

## 2、 話し合った内容

「各学校園所で大切にしていること」

- ・ 気になる子どもや保護者へのアプローチ
- ・ 聞く力、自分の思いを言葉で伝える力
- ・ 自尊感情を育むこと
- ・ 集団づくり
- ・ 入学までにつけたい力
- 等

上記テーマで、4グループに分かれ交流を持った。

上記項目は、どの学校園所にとっても課題としている事なので、各課題ごとに取り組みや思いを出し合ったグループや、特に一番力を入れていることを中心に話し合ったグループがあった。その中では、

- ・ カウンセリング担当や、SSW（スクールソーシャルワーカー）など外部機関との連携で子どもや保護者とのアプローチを図っている
  - ・ 能力開発レッスンを毎日40分間続けることで、集中して聞く力を育てている。
  - ・ 子どもどうして話し合う機会を意図的に多く持ち、自分の思いを伝えたり、人の話を聞いたりすることを心掛けた。
  - ・ ソーシャルトレーニングを園全体で取り組み、自分の気持ちを話すようにした。
- 等、興味深い話が出された。

小学校入学までにつけておきたい力として、「座って話を聞く」のほか、「和式便所に慣れることはできないか」という話も出された。しかし、ほとんどの園所では和式便所がなく、また、家庭でも和式はほとんどないため、意外なところで案外難しいことだと感じた。

## 3、 今後の課題・まとめ

校区での幼保小連絡協議会は年2回しかないので、行事や引継ぎ等、定期的に近隣の幼保小の連携が必要である。

# 桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

## 【参加人数】

小学校 10名・こども園 4名・保育所（園） 6名・幼稚園 16名・児童発達支援センター 1名

## 1. 基調とした発表

### テーマ

「つなげよう 子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見すえて～」

〈とよなか文化幼稚園〉『森のようちえん』

### \*実践発表

#### ①芋掘り・枝豆採り

三田アエルキャンプ場の近くの畑へ行き、芋掘りと枝豆採りをした時に芋のなり方や、蔓の繋がり方、土の中の様子を学んだ子どもたち。実際に自然と関わり、畑の方とも関わることで、実物を見たり触ったりして、大きさや形を知る。この時、収穫の喜びを味わうことや観察力を伸ばすこと、畑の方との対話の中で知識を得る事、知ろうとする意欲を育てることをねらいとしている。

目の前で本物の芋の刈り方を見せて貰うとショベルカーによって収穫されていく様子や沢山のお芋が土の中に眠っている事を知り、喜んで見ていた。芋の様子を見た後、枝豆のなり方を見せて貰ったのだが、初めて見る〈枝に付いた房の状態〉に食い付いた子どもたち。「こんな風になっているんだ」「一つじゃなくて沢山ついているね」と、興味を示しつつ一人十個採って見せ合うなど満足している様子だった。採った枝豆を数える事になり、まず枝から房を外し手触りや大小様々な大きさを知る。次に採った枝豆を並べ、数を数える経験となった。この時数えることの正確性だけを育むのではなく、数える事の難しさに気付いたり、数への興味を示したりして欲しいというねらいがあった。沢山採れた枝豆は、他クラスにも分けてあげる意見が出たり、小さい友達に採り方を教えてあげたいという意見がでたり思いやりの気持ちが育まれた。

#### ②枝豆を使って調理・話し合い

収穫した枝豆を使いクッキングをして、匂いを嗅いだり友達と喜んでずんだ餅作りをしたり、美味しく頂いた。その後、まだ沢山の枝豆が残っていたので、先生や友達と話し合った。「まだ食べてない人は誰?」「どうやって食べて貰おう?」「誰にあげたい?」「お母さんにあげたい!」「うめぐみにあげたい!」と子ども達からやりたい・あげたい・なりきって楽しみたいという思いが言葉にして溢れ出た。自分達でも経験の出来る事を話し合った結果、お店屋さんごっこに発展した。

お店屋さんごっこについて話していく内に「どこで売る?」「どんな役割がある?」

「レジ係!」「看板がいる!」と、対話力が身に付き人との関わりが深まった。

自分達で看板やチケットを手作りし、事前に保護者に手紙で知らせた。お店で売れ

そんな枝豆選びを行った。どんな豆が大きくて美味しいか考えていくなかで、大きさを比較することができ、食への関心も持った。

### ③枝豆屋さん（二日間）

自分達で店番をしたり、誘導したり、売り込みをしたりと、言葉を使ったコミュニケーションが多かった。これにより、自分達で考えて取り組む中で仕組みを知ると共に役割分担をして楽しみながら責任感を持つことが出来た。子ども達がどんどん活動を膨らませていき、大人のアイデアだけではなく、子どもの主体となる活動となった。売り上げたチケットを自分達で一枚 10 円だから 10 枚で 100 円と、数えながら合計金額を知り、売り上げの 1190 円は本物のお金と交換し、金銭教育の学びに繋げた。この活動によって仕事の大変さや社会の仕組みを知った。

### ④本物のお金を持ってお買い物

「もし、このチケットが本物になったらどうする？」と、問いかけると欲しい物ややりたい事を発言し、夢を膨らませる子どもたち。現実では売上金額では買えないものだが、活動により想像力や表現力が豊かになった。話し合いをしていると手紙（アエルの神様より）が来た。体が温まる物が食べたいという神様の為に少人数グループで相談し、意見を出し合った。お味噌汁なら作れることになり、売り上げを持って買い物へ行った。本物のお金を持ってのお買い物を経験する子どもたちは、事前に材料や支払い方法・交通マナーなどを考えてから出発した。意見を言う・聞く事で自分達で考え、決断する力が育ち、子どもが主体となる言葉のやり取りとなった。お店に着くと野菜を子どもたちだけで探したり、質を選んだり、店員さんに聞いてみたりと自分達で見つけられる方法を考えていく事が出来た。

大人の手を借りず、自分達の力で様々な方法を見つけていく中、大人との関わり・社会性を学んだ。更に、お会計でお金が足りないと分かり、金額を下げて選び直した結果、同じ商品でも金額が違う事や単価を比べる知識・お買い物の苦勞を知った。

### ⑤お買い物をした材料でクッキング・アエルのキャンプ場へ届ける

クッキングを通して、道具の使い方を経験し、食材に触れながら友達と思いやりを込めて作る。みんなで届けて、自分達が作った物に達成感を味わい、これまでに沢山の活動を広げてきた。

### ⑥活動を終えて

- ・話し合いの場を出来るだけたくさん、なるべく時間を掛けて行う事で、大人がいない所での子どもたちだけのやり取りを観察出来た。これは、自分の思いを言えるようになったり、伝えようとする思いが育ったりしていく事が分かった。
- ・話し合いの積み重ねで、「言葉での伝えあい」が少しずつ育っている過程を見ることができた。
- ・子どもたちのアイデアが工夫されていき、どんどん膨らんでいった。

## ⑦保育者の学び

- ・活動の中で育つ子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と照らし合わせながら話し合う事ができ、今後の保育活動を考える時の視点を共有する事が出来た。
- ・指導計画や環境構成を考えたり、先生同士で色々な情報を共有することで次の活動につながっていくと感じた。またそれが「10の姿」の育ちへと繋がっていくと思った。

〈桜井谷小学校〉

\*桜井谷小学校1年生 学年テーマ「ともだちいっぱい えがおいっぱい」

\*実践発表

### ①1学期～わくわく☆ドキドキ1年生～

#### くぐらせ期

ハサミを使って遊んだり、絵描き歌で絵を描いたり、紙をちぎったりして学習に必要な力や道具の使い方を身に付けていく。文字や数字にいきなり入らず『勉強って楽しいな』という時期を大切にしている。

- ・ひらがなの学習を通して見られる子どもの姿（書き順を作りながら知る。）では、(例)ねんどで「あ」を作った。一画ずつの長さを知る為、粘土の長さを考えて作らなければ、マスの中にバランス良く入らない事に気付く。

☆他にも字にちなんだ材料を使って、文字のバランスや書き順を学んできた。

50音の全ての平仮名を学んだご褒美に最後の「ん」を粘土で作り、ペンダントにして貰う事で達成感や喜びが味わえた。

#### 1学期の行事での子どもの成長

例えば、「学校探検」をして他学年との交流によって、交友関係を広めたり、校舎内の探検をして場所や使い方・ルールを教えてもらったり、困った時は助けて貰ったりする関係を築いた。他にも、「こいのぼり集会」といって高く飛べるようにとうろこを1人2枚作ったものを見て、喜びを感じたり、関心を示したりする姿があった。「春の遠足（千里中央公園）」では、初めての電車行動で乗降時のルール・車内でのマナーを学んだ。また、歩道では2列に並んで端に寄り、通行人の妨げにならないように歩くことを意識していた。

用務員の方が作った泥でどろんこ遊びをした時、苦手な子どもは、参加しようと思わず、その姿を見て、砂遊びに誘ったり水を流す役目を与えたり、子ども達同士で気遣い声を掛け合う様子が見られた。七夕の時期に中国人の子ども達と交流する事になり、言語の違いを感じた。伝わらないから諦めるのではなく、絵に描いたり・身振り、手振りをしたり子ども達なりに考えて実践していく姿が見られた。

### ②2学期～なににでもチャレンジ1年生～

#### 2学期の行事での子どもの成長



平和の素晴らしさを先生が伝え、子ども達同士で話し合い、参観で保護者を交えて考え合う「平和学習」をした。後日、教材（紙芝居「かわいそうなぞう」）を用いて「可哀相」の言葉だけでは終わらず、戦時中の苦しみや被災した悲しみなどを子どもたちなりに考えていく場となった。

「公園探索」に出掛けた時には、四季を感じられるよう季節の自然に関わり、葉の変化や鳥が実を食べている姿などに目を向けてきた。子ども達は着眼点が鋭く、大人が導かなくても自分自身で考察することが出来るようになった。

更に、お正月に向けて門松づくりにチャレンジ。色々な人の協力のお陰で経験出来る環境を知り、感謝の気持ちを言葉にして伝える大切さを学んだ。

### ③ 3学期～もうすぐ2年生～

#### 3学期の行事での子どもの成長

「伝承遊び（けんだま）」に挑戦するが難しく、持ち方ややり方を人から教わり、伝授してもらって実践した。結果的に難しかったが、成功した時の喜びを味わえたり、人に教わったものを実践できたりした。

縦割り班に分かれて「子どもまつり」に参加した時には、集団行動がゆえに意見が食い違う時があった。自己主張を抑え、周りの意見にも耳を傾け、相談する中で自分の考えと違う人がいる事に気付けた。

#### 2. 話し合った内容

- ・1つの活動で留まらず、発展していく為には、子に問いかけ大人が受け入れたり広げたりすることが大切である。
- ・本物を見せたり、使ったりする事でより豊かな感性が養っていくことが分かった。
- ・子ども主体となる活動の中で、子ども達同士が発言し合う場が増え、意見を交わす力が付いた。
- ・字に興味を持つのはいつ頃なのか、就学前に必要な力とは何か、と考えた時に幼稚園での経験が小学校での土台になる為、「くぐらせ期」を大切にしている事が分かった。
- ・早期教育に追われるのではなく、基礎から身に付けたい。
- ・幼稚園・保育園・子ども園・小学校、お互いに教育課程を見合って保育に生かしていけたら良い。
- ・幼保小共に連携し、子の育ちに移していきたい。

#### 3. 今後の課題・まとめ

何事にも先に大人が、答えを出してしまいがちなので自分で考え、決断する力を付けたい。その為には、教育現場だけでなく家庭でも同様の関わりが必要だが、実際には連携が希薄である。今後、家庭でどのように子どものコミュニケーション力をアップさせていくべきか考えたい。

# 克明・箕輪小学校区

【参加人数】 小学校(5)名 こども園(8)名 幼稚園(0)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(0)名  
小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

## 1、 基調とした発表

### 【克明小学校】

系統立てた人権総合学習の取り組みについて

1年生：学校で働く人 自分の名前 ぽかぽかおしごと

互いに認め合う仲間づくり

いろいろな家庭状況におかれている子ども一人ひとりが、自分は大切な存在である、と気づくことができるように。

### 【箕輪小学校】

ひらがなの取り組みについて

ひらがなを文字として、獲得していくための手立て。

授業を通して、子どもたちのつながりをつくっていく。

## 2、 話し合った内容

- 子どもたちが小学生になるまでに身につけさせておいてほしい力
- 集団意識
- 集団に入るまでの過程、連携の大切さ
- 卒園した子どもの反応
- 幼保小と中学校、それぞれのつながりの大切さ
- 園の子どもたちは朝食をとっているか
- 給食残食

## 3、 今後の課題・まとめ

幼保小がつながって子どもたちを育てていくことの大切さ。

子どもの育ちや状況について、密に情報を共有していくことで

子ども一人ひとりの成長を支えていく。

# 大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校（11）名、こども園（5）名、幼稚園（17）名、保育所（園）（5）名

## 1、基調とした発表

平成30年度 第二回 幼保小連絡会

「つなげよう子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」

## 2、話し合った内容

上記テーマに対する各園の取り組み

### 緑ヶ丘幼稚園

2月にある音楽会に向けて練習。保護者にも手伝いをたくさんしてもらっている。（保護者との連携）お手伝いを通して、行事に深く関わって頂くことで、職員の動きなども見てもらって、保護者の方に行事をより楽しんでもらえるようにしている。年長さんが外部講師を招いて和太鼓を練習中。戸外での練習になるので、大きな音を出すことを地域の方にもご了承いただくなど、協力してもらっている。音楽会には地域の方をご招待するなど、行事を通しての連携が多い。保護者、地域の方との連携を取りながら、行事を進めていったり、1年の思い出作りを楽しんでいる。

### 神童幼稚園

今は合奏を通して、楽器を楽しんでいる。3学期なので異年齢での関わりが深まってきている。年少の部屋にナースリーの子どもが遊びに来て、集いやゲームを一緒にする交流が始まっている。お兄ちゃんお姉ちゃんに関わったり、幼稚園の先生達とも関わるなど工夫している。

年長と年中は飼育当番を一緒に行っている。抱っこの仕方を伝えたり、餌の量を一緒に考えたりして取り組んでいる。

年長の遠足は、場所を話し合いで相談して、子どもたちが興味のあるところに遠足に行く。

12月の動物園では、どう見て回るか、10人ぐらいのグループで話し合っ取り組んだ。時間係りやいただきます係りなど担当を決め、事後にうまくいかなかった所など、グループごとに振り返りもして次の遠足につなげている。それ以外にも、興味のある動物の図鑑を作ったり、気になった所を調べて深めたりしている。

### 東豊中幼稚園

就学までに、言葉での伝え合いができるように保育に取り組んでいる。今年度は朝、グループタイムを作って子ども発信で、発表する機会を作っている。自分のしている遊びについて話したり、友だちの発表に対して質問したりといったやり取りをしている。この時間に、人の話を聞く大切さや、話をわかりやすく伝える経験を通して子どもたちの力になるようにと思っている。

グループ制作にも取り組んだ。どういうものを作るか？ということから話し合っ、カレンダーで期間を見えるようにして、見通しをもって取り組んだり、役割分担が子ども同士でできるように取り組んだ。トラブルを自分たちで解決できるように、見守りながら、保育者は最終の確認をするようにしてきた。

### 梅花幼稚園

お正月あそび→コマに取り組む。まわせる子が回せない子に伝えていくなど、教えあうことで協力するようになった。今は対決できるほど上達。勝敗があることで、勝つためにはどうするかなど考え、友だち同士、切磋琢磨するようになった。保育の中では、常に話し合いを通して、自分の気持ちを言葉で伝えあえるように取り組んでいる。

### とよなか文化幼稚園

年間を通じ、保育の中で話し合いに時間をかけて丁寧にしていこう、ということを大切に活動を進めてきている。子ども達の話し合いから、秋に経験した枝豆とりの活動が、10円のチケットを配り保護者や先生達に買い物に来てもらう「えだまめやさん」に発展した。活動の中で話し合いが自然に始まり、売り上げを数える係やお金を預かる銀行係なども必要だと気づいたり、売り上げをどのように使うかを考えたり、時間をかけて話しをする中でどんどん子ども達の思いが膨らんでいった。話し合いをする中で自分から意見が言えるようになる子もいたり、相談しながら自分達で決めることで、実現のために協力しあう姿や、次の活動に意欲的に取り組む姿がみられた。自分達で考え、やってみることを通して、責任感ややりがいを感じられれば…と、子ども達からの発案を取り上げて取り組んだ活動だが、環境構成やどう進めるかなど、子ども達の思いを実現するために保育者同士も話し合いながら進めることで、「育てて欲しい10の姿」の多くの部分が育っていったことを感じた。

### 宮山幼稚園

1年の行事がたくさんある。その中でクラスや学年で動くことが多い。12月の作品展では、縦割りの活動も取り入れている。クラスとは又違った環境になることで、クラスでは控えめな子が、年下の子に優しく接することができるなど、又違った面を見つけることができ、年少さんは、年上の子に憧れを抱いたりするよい経験になっている。

”おあしす運動”を取り入れている。「おはようなどの挨拶、ありがとうという言葉、親切にする気持ち、すみませんという気持ち」をもって保育をする。挨拶を基調とした活動。園長先生をはじめ園で取り組んでいる。

### 野畑こども園

公立が全てこども園になり、教育要領をどう保育におとしていくか、10の姿をどう保護者にアプローチするかを、今年は中心に考えている。保護者の中には就学前教育は遊んでいるだけだと思っている方も多いので、保護者に向けて、こういった活動が就学後のこういう姿につながっていくという説明をさせてもらった。また、送迎の機会に、ポートフォリオ、ドキュメンテーションなどを保育室の前に置いてみてもらえるようにした。

間違いを恐れる子が多い。答え、正解を求める子が多いので、自分の気持ちを表現できる子ども、人の話をきっちり聞ける子ども、友だちが自分と違うということを認められる心、答えを導く過程を大切に保育に取り組んでいる。どうして?なぜ?と思った時にすぐ調べられるよう工夫して環境を設定している。子どもが自分で導いた答えが間違っている場合でも受け止め、正解に近づけられるように、間違いに子どもが気づけるように環境を大事に考えて構成している。

自分の思いを伝えることに関して、こども園には言葉が話せない子ども、聞こえない子もいる。なので、言葉を介したやり取りも大切にしながら、その子の動きや表情をを通して思いを押し量る、読み取る力も大切にしている。

### たまい保育所

グループ活動を多く取り入れている。行事にあたり、例えば運動会なら、子どもが相談し試行錯誤して技を成功させられるように取り組んだ。今なら、劇遊びに必要な道具、物なども、子どもたちが話し合って決めるようにしている。そうすることで子ども主体で保育が進められるようにしている。ケンカなどのトラブルは言葉で思いを伝え合えるように取り組んでいる。

### そらのつばさ保育園

小規模保育園。0～2歳の子が通う施設。3歳になるとどういったところに通おうか、迷ったり心配したりしている保護者も多いので、今聞いたことを保護者にも伝えたい。

2歳7人。大きな集団にはいっていきけるよう、できるようになったことを認め、困っていることを発信できるように関わっている。

### あけぼのぼんぼこ保育園

10の姿を考える中で、この姿が到達目標に考えている保育者が多かった。到達目標ではなく、見ずえて、どう活動を展開するのかを考えていくことが大切だということを職員に伝えていっている所。

普段、縦割り保育の中で、年長は他の学年のお世話を通して色々なことを獲得している。就学を目前に、他学年がお昼寝をしているなかで小学校プロジェクトとして普通の遊びを机と椅子でするなど小学校ごっことして取り組んでいる。他園との交流を通して、仲間作りをしている。自己肯定感を育てながら、入学時に少しでもコミュニティーができていればと思っている。

### 聖ミカエル保育園

全園児50人の少人数。キリスト教保育。見えないものに目を注ぐという感覚で保育をしている。3学期になりとても落ち着いて過ごしている。友達との伝え合いの中で色々な違いに触れ、受け入れたり、協力したり、折り合いをつけたりする体験を大切に過ごしている。お祈りの時間には、病気で欠席している友だちのことについて祈ったり、祈ってもらったりすることで自分を想ってくれている人がいるという経験をもとに、自分が自分であることに自信を深めていく、自己肯定感を大切に保育をしている。色々な経験を芽生えとして大切に、ひとりひとりの賜物を大切にいいところを伸ばしていけるよう取り組んでいる。卒園後の人生の方が長い子どもたち、幼児期が芽生えの時期と捉えている。発表会を通してクラスの中で様々な形で、自己を発揮する中でみんなに認めてもらえるよう活動している。

### 本町こども園

1～5歳の子ども。支援を要する子どもなど様々な子が在籍。自分らしさを大切に、仲間同士で認め合える関係づくりという事をテーマに保育をしている。5歳にも色々な子がいる。衝動性がある、だめとわかってもやってしまう子がいる。12月ごろ、クラスの雰囲気に関心が出てきた。2月にある発表会では、クラスの現状を踏まえて、絵本を選んで取り組んでいる。その中で、お互いが気持ちを考え、知っていけるように取り組んでいる。役決めは自分がしたいものを、子ども同士話し合っ決めて、自分で決めたから、意欲的に責任をもって取り組んでいけるようにしている。クラスの子がそれぞれの気持ちを感じ、考えて取り組んでいけるように日頃保育をしている。

### 大池小学校

就学当初は同じ幼稚園、保育園、こども園と固まって遊んでいることが多い。時間が経つにつれ、人数がたくさんいる事にも慣れ、仲良しの子が他の園の子という事も増える。116人4クラス。単語で話す子がだんだんと文章で気持ちや状態を訴えられるようになってくる。3年生になると次年度新1年生と関わる機会を持っている。2年生は入学式でパフォーマンスをしているので1年生はそれを見ているので、自分がすることも楽しみにしている。1、2学期の下地を経て、次へつながっていくように。

### 上野小学校

入学当初から夏にかけては学校案内をしてもらったり、教えてもらう受け身の活動が多い。185名を超える集団生活のなかで徐々に自立した生活に変わっていく。1年生招待会なども通して、自分たちが受け入れる立場に変わっていく。ワールドミュージアムという学校行事がある。帰国子女保護者会を中心に全職員で一丸となって様々な展示をしたり、調べたものを発表する機会。今年は世界の食をテーマに、世界の文化に触れる機会を作っている。1年生も昔話という形で展示に参加。体験的な活動を通して自国の良さをしり、世界に目が向いていくように進めている。

## 少路小学校

1学期は個の遊びが中心。自分を出せない事が多く、先生と1対1の関係。2学期頃からクラスの友だちに目がいくようになり、関係が広がっていく。外国籍の子、帰国子女、ロシア領事館のお子さんも多い。今年の1年生は色々な国の挨拶、じゃんけん、遊びを通して色々な学習をしてきた。外国の調べ学習ではパフェを調べた。遊びや学習を通して、どんな外国籍の子でも、支援の子でも、どんな子でも、受け入れ、関わりを持てる子になっていったと日々取り組んでいる。

### 3、今後の課題・まとめ

色々なご意見、お話を聞いて、子どもたちの育ちを聞けたこと、よかったと思います。せっかくのきかいなので、ご意見があれば何か聞きたいことがあれば・・・

◎これができていたら就学時、つまづかないのに・・・と思うことやつまづきやすいことなどあれば教えて欲しい  
(東豊中幼稚園)

A: 自分のものを大切にするという事。就学すると物が増える。いろんなところに散乱していても平気だったり、名前があっても見ようとしない、拾わないなど、ものを大切にしないという姿がある。自分のものの管理ができる、大切にできているとよい。授業の始めに落し物の確認で時間を取ることもあるので、それがなくなるだけでも大きい。

ケンカした時にお互いにごめんねを言い合う子ども達の姿がある。幼稚園、保育園などでそのようにしてきたのだろうと思う。それのおかげで保護者同士も穏やかに許しあえることも多く感謝している。  
(上野小学校)

### まとめ

大きな集団の中で自分だけの力では意見が言えなくても、友だち、先生の力を借りてでも、発揮できるようになってほしいと思っている。小学校でも、就学前でも、そういう子どもに育てていきたいと思う。お話を伺う中で、自己肯定感、自己有能感も後押しになると思った。就学後の子どもの姿に、就学前の姿を感じることもあるので、幼保小のつながりはとても大切だと感じた。  
(少路小学校)

# 野畑・北緑丘小学校区

【小学校6人・こども園3人・幼稚園8人・保育園4人】

## ① 1学期に話し合ったサブテーマ「やってみよう・育てよう」について実践していることの報告

### 《幼稚園・保育園・こども園》

- ・定期的に縦割りグループでの活動。回を重ねるにつれて年長児としての役割が出来るようになってきた。
- ・給食だけでなく、お散歩や遠足・お外遊びなど野外での縦割り保育。
- ・3つの保育園で交流。リレーやお店屋さんごっこ。次回はドッジボールをする予定。  
小学校までに他園に顔見知りの友達ができることで小学校へ行く楽しみが出来る。  
他園の友達との交流を通して先生たちも新しい発見があった。
- ・年齢が低いからできないと断るのではなく、やりたいと言い出したことはやってもらえるように保育者が補助してできるだけ経験してもらう。
- ・手紙を書いてポストに出しての郵便ごっこ。ことばだけでなく、文字や絵を通して友だちと関わる。
- ・泥を作って泥あそびを楽しむ。泥だんご作りなどを行い、自分で不思議を探すきっかけを作る。
- ・元気キッズプロジェクトを取り入れ、運動あそびを積極的に行う。

### 《小学校》

- ・掃除や給食は1年生と6年生が交流。運動会では2年生と合同。  
上級生を見てやってみようと思う。
- ・委員会など、1年生が知らないところで上級生が活動してくれていることを知る。  
次は自分たちがするといろいろな経験から膨らませる。
- ・こま・手話の先生にきてもらい、実際に経験する。
- ・不思議調べ：疑問に感じることを探して調べる。
- ・花いっぱいプロジェクト：学校内で子どもたちが育てた花を、道路などに活用する取り組み

## ② 連携してつきたい力

- ・身体の使い方。身体を自由に動かせない子が多い。  
鉄棒を握れない。鉄棒に乗れない。マットで回る・転がるができない。  
歩いているだけで骨折。外遊びをたくさんしてほしい。  
野畑小では毎日、校庭解放。2時間。思いっきり遠慮なく遊べる。風邪が少なくなった。
- ・話が聞けない。座ってられない。体操で楽しみながら背筋を伸ばす保育を取り入れている。
- ・給食の時間。4月は1時間くらいとっている。4時間目は給食の準備になる。  
3学期になると25分くらい。決められた時間内に食べ終える、ということに慣れておいて欲しい。  
給食がネックにならないように減らすといってきた子は減らすので心配しないで大丈夫。
- ・小学校に上がって初めて文字に触れる中で、書ける子は早く書こうとする姿があり、雑になってしまう。  
白紙の状態から始めた子の方が丁寧で、意欲的である。
- ・文字ロープを使ったり、鉛筆を使って様々な線を書く練習を行い、文字を知る活動を取り入れている。
- ・小学校で製作を行う際に個人差が大きく感じられる。折り紙が苦手な子も多いが、経験の差というよりは、得意、不得意であるように思う。
- ・何事も活動への準備に時間がかかってしまうため、練習が必要である。

# 東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】小学校(14)名 こども園(4)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター( )名  
小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1、 基調とした発表

各校園から「自分で考えて行動する子どもを育てる手立て」について発表

○東豊中小

- ・係活動の中で一人一役を担うことなどを通して、人の役に立つことを自分で工夫して動けるようになってきた。

○東豊台小学校

- ・指示待ちの子どもに「どうしたらいい？」と返して考えさせる。
- ・学級集団づくりを通して自主的な行動を引き出していく。

○東泉丘小学校

- ・子どもたちに困っていることを出させ、話し合わせる。
- ・メダルやカードなどで目標を意識させる。

○東豊中幼稚園

- ・グループタイムで自分の意見を発表させる。カード等で目標設定させる。

○東豊中こども園

- ・友だちのことを考えて動けるよう、輪番で全員にグループリーダーを経験させる。

○ゆたかこども園

- ・グループ活動を通してリーダーを育て、友だちを意識し、友だちと協力させていく。

○白鳩チルレンセンター

- ・友だちの良かったところを発表することで発言の練習をさせている。
- ・少しがんばって取り組まねばならない挑戦することも取り入れている。

## 2、 話し合った内容

○幼稚園・こども園では、グループ活動を中心に、みんなの前で発言する練習や友だちのことを考えるリーダー体験などを工夫していくことで、子どもの自己肯定感を高めることを大切にしている。

○小学校では、幼稚園・こども園の活動を基礎に、さらに自分の考えたことや困り感なども話せるような工夫をしている。グループ活動を学級集団づくりにつなげている。

## 3、 今後の課題・まとめ

○各小学校別の体験入学の日程調整

○幼保小の連携に関わる小学校単位で2万円の講師謝金がある。3校区合同で子ども理解等の研修を次年度に向けて計画してはどうか。

○今後さらに小学校入学時のスムーズな情報交換ができるように工夫していく。



## 南丘・新田・新田南・西丘小学校区

【参加人数】小学校:22名 こども園:10名 幼稚園:4名 保育所(園):6名 児童発達支援センター:0名

《第1部》『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』の中で、  
特に、重点的に取り組んだ 実践事例及び子どもたちの様子についてのグループ討議

### Aグループ 重点課題:「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」

- ・気持ちを言葉にすることや、言葉で伝え合うことが苦手な子どもたちが多い。友だちに関心を持ってほしい。一人一人の「もちあじ」を認め合ったり、友だちのいいところ探しをしたりする取り組みを積み重ねている。(小)
- ・個性は豊かだが、協調性に欠ける。指示待ちの子も中にはいるが、できるだけ、自分たちで、言葉による解決をさせていきたい。遊びや様々な活動も子どもたちから発信できるように、支援していく。(幼)

### Bグループ 重点課題:「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」

- ・親の不安が子どもに伝わっているからか、親と離れられなかったり、生き渋ったりする子どもが多い。また、失敗を恐れる子どもも増えていて、うまくいきそうにないことはやらない。親が手を出しすぎているのかもしれない。
- ・園どうしの交流を増やしたり、小学校ではクラスを解体したりして、いろんな人と出合えるようにしている。
- ・「いいところ」も、「苦手なところ」も言い合える(言葉で伝え合える)人間関係を築かせていくことが大切。お互いの頑張りを認め合い、伝え合う活動を積み重ねることで、安心感の持てる人間関係を築いていける。

### Cグループ 重点課題:「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」

- ・幼保でできていたことが、小学校に入ってできなくなってしまうたりする。不安の強い保護者が多いので、できるだけ段差を小さくすることが大切。小学校での取り組みを保幼でも取り入れたり、保護者に対して、保幼と小の違いをきちんと伝えたりすることが必要。困っていることが伝えられ、自分たちの力で解決できる子どもに育てたい。

### Dグループ 重点課題:「協同性」「社会生活との関わり」「言葉による伝え合い」

- ・月案を立てる際や行事に取り組む際、「10の姿」を常に意識している。(こ)
- ・トラブルがあっても子ども同士で解決できる力をつけさせるようにしている。そのために、言葉での伝え合いは大切。言葉の出ない子には、「絵カード」で気持ちを伝えさせている。(保幼)
- ・幼児期から、「ペア⇒小人数⇒グループ⇒全体」と段階を追って話し合いができるようにする。

### Eグループ 重点課題:「自立心」「協同性」「社会生活との関わり」「言葉による伝え合い」

- ・幼保の間に、みんなで話し合ったり、伝え合ったり、協力したり、という経験をしているので、入学当初は不安そうな子どもたちも、「聞いてもらえる」という安心感の中で、徐々に落ち着いていく。
- ・小学校では、聞くとき、話すときのメリハリをつけることを意識し、「伝え合い」を大切にしている。

### Fグループ 重点課題:「自立心」「社会生活との関わり」「言葉による伝え合い」

- ・クッキング活動を通して自立心を育てる取り組みをしている。(幼)
- ・縦割り活動の中で社会性が育ってきた。思いやりのある関わり方ができるようになった。(保)
- ・本に親しみ本を好きになる取り組みをしている。言葉で伝え合うことでトラブルが減ってきた(小)
- ・困っている時に「助けて」や「わからない」と自分から言葉で伝えられるようにすることが大切。
- ・「～ねばならない」の重たいプレッシャーから解放されて、安心感を持って、小学校に入学できるようにしなければならぬ。

### 【まとめ】

「ことばによる伝え合い」の重要性は、どのグループからも出されていた。困っている時にヘルプが出せたり、自分の気持ちを相手に伝えられたりする力を幼児期からつけていくことが大切である。子どもたちが安心して、お互いの思いを伝え合い、たとえトラブルになっても、自分たちで解決できるような集団づくりを目指していく。

《第2部》 各園所と4小学校で、個別に、新1年生についての引継ぎ会議

## 東丘・北丘小学校区

【参加人数】 小学校(9)名 こども園(6)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター(0)名  
小規模保育事業施設(3)名 事業所内保育事業施設(0)名

「つなげよう 子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて」  
に沿って、具体的に子どもたちの様子、各学校園での取り組みや工夫、次年度へ向けての取り組み目標、今後の課題を話し合いました。

話し合いが進むように、A～Dのグループを作って話し合いをしました。

### グループA

幼稚園：お店屋さんプロジェクトを1か月間程度行っています。運営していく中で、話し合い解決能力や共同性が育っています。

小学校：2～6年生がお店屋さん。1年生がお客さんで行っています。やりたい気持ちを持っている子どもが多いので、意欲的な活動ができます。カリキュラムの兼ね合いで1日しか行うことができないのが現状です。

保育園：人数が少ないからこそ、様々なことにチャレンジしたいと思います。公園に遊びに行っています。

小学校：子ども同士で問題を解決したり、遊びを進めていったりする姿があります。一方では、聞く姿勢づくりが難しいです。話者の話を自分のこととして聞く力が弱いです。

\*課題・幼稚園で経験してきたことが、メンバーが変わることで、育ちのつながりが途切れてしまいます。小学校のカリキュラムの中で、自分で考えることが少なくなっているのではないかと思います。

- ・聞く姿勢については、話に対しての興味関心の持ち方もあると思いますが、体幹が弱いと小学校で姿勢を保てないと思います。運動遊び0～5で力をつけていくことが必要です。

### グループB

幼稚園：お店屋さんごっこの取り組み方について、始めに保護者がお店をいってお店屋さんの学習をさせた後で、子どもたちの話し合いで内容などを決めています。お店屋さんの決断の時には、仲間と折り合いをつける力が育ちます。お店と飾ったりして作っていくことは、5～6人のチームで試行錯誤する力になります。お店屋さんを運営することは、お客さんの言葉を聞いて、お店の人になりきって「こだわり」を持つ力になります。

こども園：家の人から保育園の人に自分を預けられて泣かなくなりました。自分でトイレをしたり、スプーンが持てるようになりました。子どもたちには、人との愛着関係が大切だと思います。このことが「育ち」の基礎を育てています。

幼稚園：保育園では3歳はお兄ちゃんですが、幼稚園では3歳は一番下になります。1番は子どもととらえて、子どもたちが主体性を持って、自立しながら協力できることを大切にしています。

小学校：クラス会議を開いて、ふわふわ言葉とチクチク言葉について話しました。

子どもたちのその年代に合わせた教育をしています。

#### グループC

小学校：グループでの話し合いができるようになりました。書く力・表現する力が付きました。

幼稚園：みんなで力を合わせてできる喜びを持たせるように取り組んでいます。みんなで考えてお店屋さんごっこをしています。

こども園：0・1・2歳です。泣かずに1日を過ごすことを目標に取り組んでいます。

小学校：大学生がスクール・サポーターとして援助してくれます。コミュニケーション力や基礎学力を大切にしています。

幼稚園：作品展などを通して友達と話し合い、みんなで力を合わせて作り上げ、やり遂げることを喜びとしています。

\*課題・深い学びができていません。小学校では、集団生活を身に付けていくことです。幼稚園では、段差をなくしていく保育をすることです。校種共通して、自分で考えて行動する力をつけることが必要であると思います。言葉による伝え合いや、思考力の芽生えを大切に、それらをつなげて学びにしたいです。

#### グループD

小学校：係り活動では、譲り合うことができるようになりました。子どもたちの中で折り合いがつけられるようになりました。席替えなどでは、示された図を見て動けるようになりました。

幼稚園・保育園：自分の思いどおりならないときなどは、解決の方法を子どもたちが考えるようにしています。優しさを大切にしています。縦割り活動に取り組んでいます。障害を持っている子どもを含めて、どのように活動すればよいかを子どもたちに話し合いさせながら進めています。自分の気持ちの伝え方を考えさせています。子どもたち自身が「自分は自分のままでよい」という気持ちが持てるように取り組んでいます。就学前に下のクラスに入ってかかわりを経験しています。ボディーパーカッションを取り入れて表現を豊かにしています。

\*課題・支援を必要とする子どもについては、最初は友達と思いますが、真の意味で一緒に生活することができるような仲間づくりを実践したいです。自分も相手も大事にする気持ちを育てることです。

# 桜塚・南桜塚小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(4)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

## 1、 基調とした発表

### 【 講演「新学習指導要領から考える幼保小連携について」】

講師 豊中市教育委員会事務局 人権教育課 加納真由美

#### ○新学習指導要領について

1. 幼稚園・保育所・こども園での経験や学びを小学校（小学1年生）へつなぐために
2. アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム
3. 幼保小連携がめざすもの—発達や学びの連続性を踏まえた円滑な接続—

## 2、 話し合った内容

参加者を5グループに分け、「育てたい子ども像」という内容で話し合った。

### ① 自分たちで考え、行動する子ども

- ・時計を見て行動し、今何をすべきなのか自分たちで考え、行動するようになってほしい。また、もめごとなども、自分たちで話し合い解決できるようになってほしい。

### ② 伝え合い、つながりあう子ども

- ・自分の気持ちを言葉で伝えて、周りの友達とコミュニケーションをとったり、相手の事を考えて発言したり行動できるようになってほしい。

小学校の段階でこのような子どもを育てていくために、幼稚園、保育所のころから少しずつできるように、「育てたい子ども像」を意識した活動を取り入れていく。

## 3、 今後の課題・まとめ

### ① 引継ぎにおける連携

子どもの様子だけではなく、保護者の様子や家庭環境といった情報も含めて引き継いでいく必要がある。そのために幼稚園、保育所への聞き取りの体制を見直すことや、新1年生の担任と幼稚園保育所との直接の引継ぎの場を設けるなど、各施設でできることに取り組んでいく。

### ② 今後の幼保小連絡協議会で取り組みたいこと

「アプローチプログラム・スタートプログラム」をこの協議会で見直したり、お互いの教育の様子を見学し合ったり、幼稚園、保育所から小学校へ入学する際にある「段差」を解消していくためにできることに取り組んでいく。

## 熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】小学校(12)名 こども園(3)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

### 1、 基調とした発表

校区のテーマ 言葉によって伝え合い、友達と仲良くし、自主的に心豊かに過ごす子どもを育てる。

参加の幼保小から、各取り組みを発表し交流しあう。

### 2、 話し合った内容

#### 熊野田小

朝の会や終わりの会などスピーチを実施、特に終わりの会では「本日のキラキラさん」と名づけて、がんばっている友達を発表し、認め合うクラス作りをしてきた。言葉を書くことでは、日記や生活科の観察カード、道徳ノートなど指導している。自主性を育てるために一人一係りの当番活動をした。休み時間など男女で仲良く混じって遊ぶ姿が見られる。

#### 泉丘小

学年のテーマを「みんななかよし」とし、お互いのいいところの伝え合いをした。国語のひらがなではくぐらせ期として、手先を使うことを大切に指導した。体験したことを模造紙3枚ぐらいにみんなで絵に書いたり、せりふを入れたり、感動体験を共有した。話す活動では、国語で「おおきなかぶ」「いろいろのふね」「サラダで元気」などでワークシートに書き、ペアトークとして隣同士で伝え合いをおこなった。日記指導に取り組み、それを学級通信にのせて、交流をした。書くことからみんなに広げていった。スピーチや「キラキラさん」の取り組みで話すことにもなった。友達とのもめごとで、きつく友達に言う児童もいたが、「どうしたらいいかな。」と問いかけ話し合うことを大切にしてきた。

#### おひさま保育園

小集団では自分の思いが言えるが、大きな集団になると自分のことを伝えられないことがある。そのため、紙とペンを用意し、毎日描画に取り組んだ。描画からその日のその時の思いや気づきを1対1で聞いて話すことに広げている。園では、地域のお年寄りと交流している。おじいちゃん、おばあちゃんに対して言葉が出ないことがある。しかし、交流を繰り返して少しずつ「クリスマスツリー、お母さんよろこんでくれた。」「クリスマスツリーかざったよ。」とか話ができるようになってきた。世代間での交流で社会性を身につけてきている。

#### 東豊中幼稚園

毎日一回グループタイムに取り組んでいる。今日する遊びを決めたり、問題解決したりしている。人の意見を認めることができるようになってきた。また、子ども間でのトラブルも、すぐに保育は者介入をしないで、お互いに話し合い、お互いの気持ちに気づくように年少の時から取り組んでいる。大人に頼らないで話せる子が出

てきている。

#### **あい保育園西泉丘**

昨年度開園し、年長児 7 人である。口げんかなど言い方がきついこともある。どういふ風に言えばいいのか話している。各行事に保育者と子どもとで話し合いをして決めている。時計塔を作成することで気持ちがまとまってきた。年少や年中の児童との縦割り交流で、小さい子への言葉の伝え方を学んでいる。生活発表会のせりふなどの取り組みもしている。今は自分の名前が書けるようにひらがなの学習も始めている。

#### **旭丘かいせい保育園**

昨年度開園、3 歳児 12 名、4 歳児 9 名、5 歳児 2 名である。二人しかいない年長である。常に異年齢集団で生活している。二人が集団をリードしてほしいが、できないことが多かった。しかし 10 月の運動会后、保育者の手伝いなど進んで行い生活のリーダーになっている。おひさま保育園との交流で、おにごっこやころがしドッチボールなど楽しんで取り組んでいた。今は 2 月の生活発表会に向けて取り組んでいる。

#### **ゆたかこども園**

まちがいや失敗に抵抗感が有る子どもがいた。そこで「五感を使って」と感覚の有る取り組みを続けてきた。石鹼、色水、どろんこ、2 学期は自然遊び、粘土あそび、どんぐりや割り箸など。友達と違うことがおもしろいと気づけるようになってきた。子どもたちの心が柔らかくなったように感じる。「話したい子は話してもいいよ。」と取り組み、「歯が抜けたよ。」など日常のことをいろんな子がみんなの前で話せるようになってきた。クラスでは「ありがとうの花」の取り組みをしていて、「ありがとう」と思ったことをさがしている。自分の思いを言えるように働きかけ、トラブルがあった時、「自分の言葉で伝えよう。」「友達の言葉を聴こう。」と取り組み、友達の言葉を借りて解決できるようになってきている。

#### **旭丘子ども園**

年長児は活発でとっつきがいい。しかし、できない時にすぐあきらめてやめてしまう。なわとびやのぼりぼう、竹馬、こまなどの取り組みでこつこつ練習する子とやめてしまう子がいる。取り組む前からできないと決めてしまう。そこで、異年齢交流の取り組みを大事にしてきた。毎日集会をし、リトミック、ブリッジやギャロップなど下のクラスからの目標になるように取り組んだ。「色鉛筆の日」と題して、5 グループに分け縦割り活動を実施した。乳児、0、1、2 歳児のお昼寝の寝かしつけに行っている。自分たちが「とん、とん」することで下の子が寝てくれたこと、自分たちも役に立っていることを保育者がオーバーに褒め、肯定感を持つようになってきている。

#### **くまのだ保育園**

活発だが、立ち歩いたり大きな声で話したり、子供同士の衝突やトラブルがある。気持ちを体でぶつけ、口調が荒い。保育者が肯定的な言葉かけを行い、個々の子どもの得意なことを引き出し、苦手なことを補うことで、人とのかかわりに変化が見られた。言葉で表現できるようになってきた。先生が取り組みなどへの思いをまっ

すぐに伝える。運動会の取り組みでお互いに助け合った。個々の気持ちを大切に話し合った。「ごめんね。」「ありがとう。」など優しい言葉が出るようになった。

#### **熊野田幼稚園**

行事や日々の取り組みなど子どもたちと話し合っていて決めている。栽培植物や発表会の演目まで。子どもたちの言葉で聞き、決して否定しない。

友達の意見を否定しない。大人数の中での発表も担任に向かってではなく、自分たちの話し合いで、自分の意見を言い、人の意見を聴く。

司会をする子も出てきている。友達の意見を認められる子どもに育てている。

小学校へ進学した子が、幼稚園に戻って来てほっとすることがある。幼稚園で大事にしていること(日々話を聞いたり、抱きしめたり)が小学校での軋轢になっているのではないかと。幼稚園でみんなを引っ張っていた子がしんどくなっている。乗り越えてほしいが・・・大切にしていることをお話し、手助けになるような情報共有を行いたい。

### **3、 今後の課題・まとめ**

○行事の取り組みの中で子どもたちが大きく成長している。また、成長できるような行事の取り組みが大切である。(運動会・作品展・生活発表会等)

○日々の生活の中での取り組みも大切である。集会、ペアトーク、スピーチ、お互いに自分の気持ちを語り、聴きあう。

○異年齢の取り組みや、世代間(お年寄り)との交流、園同士の取り組みなどを通して子どもたちが肯定感を持ち成長できる。

○子供同士のトラブルも子どもたち同士で解決していけるように。「ごめんね。」「ありがとう。」などの優しい言葉を大切に使う。

### **4、 幼保小の交流の取り組み**

2月28日(木)各園に小学校からFAXを送る。何人参加するのか返事を返す。

### **5、 児童の引継ぎについて**

## 中豊島・緑地・寺内小学校区

【参加人数】 小学校(19)名 こども園(5)名 幼稚園(8)名 保育所(園)(8)名 児童発達支援センター(0)名  
小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

### 1、 基調とした発表

メインテーマ「つなげよう子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を  
みすえて～」を基に各校・各園の取り組みと実態の交流を行った。

### 2、 話し合った内容

#### <小学校>

中豊島小学校：1学期は身の回りのことをしっかりとすることから始めた。書くことを大切に  
し、そのためには自分の気持ちを出していけるようにした。読書も大切にして、  
絵本も含めて読み聞かせも行っている。

緑地小学校：「共に高め合う」「6年間を見通す」「スタートカリキュラム」を大切にし、1年  
生は「挨拶・話をしっかり聞く・生活の仕方」ができてから学習に取り組んだ。  
行事を通して仲間と力を合わせたり、最後までがんばったりできるようになっ  
た。

寺内小学校：クラスで仲間づくりを行い、ルールを決めたことにより、自分たちで意識して過  
ごす力がついた。多数決で決めても「少数派の意見も忘れないように」と添える  
ことで、がんばる姿が見られた。また、よく話せる子どもはゼスチャーで、あま  
り話せない子どもは言葉で表現するようにして、「1人ひとりが大切である」と  
いう取り組みに繋がった。

#### <こども園>

豊中ほづみ保育園：子どもが主体的に動けるように、相手の気持ちを考えることを大切に  
した。少人数であると意見を出せるので、そのための取り組みをした。自己主張  
が強い子どもが相手の気持ちに気づいたり、相手のことも考えたりできる  
ようになった。

てらうちこども園：「考える」「思いを伝える」ことを大切にした。小グループを作ることで友  
だちに気づきやすく、声もかけやすくなり、自分たちでできる喜びにも繋  
がった。

服部こども園：文字にも興味を持てる環境作りをした。行事ごとにねらいを作ることで意識し  
て活動できた。自主性を大切にして見守り、集団遊びを多く取り入れた。

#### <幼稚園>

服部幼稚園：「相手の思いに気づけるように」ということを大切にした。お店屋さんごっこを  
通して、作り方や役割分担など話し合うことで、友達への伝え方を互いに感じ  
ることができた。



曾根幼稚園：気持ちの切り替えが難しい子どもがいるが、子ども同士で気づき合い、教え合う姿が見られるようになった。

服部みどり幼稚園：子ども一人ひとりが目標を持って過ごした。心を落ち着けて考える機会を作っている。音楽会を経験する中で、他のクラスのことにも興味を持てるようになった。

#### <保育園>

あけぼのぶんぶん：「乳児期に育てて欲しい姿」を大切に「5領域」を意識して保育した。2歳児クラス後半から、身の回りのことの管理ができるようになることや、子ども同士の関わりを大切にしている。

ゆたか保育園：友だちへの伝え方について、まず大人が肯定的に伝えるようにしたことで、子どもたちもそのようにできるようになった。子どもだけで話し合う機会を多く取り入れたことで、自分の意見を押し通していた子どもも、発言しない友だちのことを気にかけたり、どう思うのか尋ねたりできるようになった。

ひかり保育園：「コミュニケーション力を高める」「聞く力を高める」ことを大切にした。話し合う機会を多くしたことで、相手の意見も認められるようになり、他の友だちがどう思っているのか尋ねられるようになった。また発表する機会を多くしたことで、単語ではなく文章で伝えられるようになった。

あい保育園寺内：相手の思いに触れるため話し合う機会を大切にした。また、異年齢交流も大切に（年下の友だちの入眠時の）トントン当番や合同散歩などにより、優しい姿が見られるようになった。

ほづみ絵本の森保育園：「自己発揮できる」「思いを出せる」ように、それを受け止めることで気持ちを表現できることを大切にした。絵本遊び、体を動かすこと・地域と交流を持ちながらの保育を大切にした。

### 3、 今後の課題・まとめ

優しすぎて相手に流される子ども、自分の思いを言葉に出して言えない子ども、自分の気持ちを上手くコントロールできない子ども、全体への話をさえぎる子どもなどがある。自分のことはできるが、友だちへの言葉がけが難しい。周囲の友だちにも気づけるようになっていって欲しい。生活や活動の中で弱い部分が見えるので、今後も申し送りができたら良いなどの話が出た。

# 豊島・豊島西小学校区

【参加人数】 小学校(10)名 こども園(1)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター(2)名  
小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1、 基調とした発表

テーマ 「 自分の気持ちを相手にどうやって言葉で伝えるか

～コミュニケーション力の育成～ 」

発表施設：認定こども園 穂積幼稚園

- ・子どもの思いを受け、共感できる。
  - 声掛けをしすぎず、自分たちで解決できるような働きかけや工夫。
  - 一日の振り返りで、楽しかったこと、悲しかったことを伝え合う。
- ・自己発揮できるように（自主性を育てる）→ 目的意識をもって取り組ませる。
- ・成功体験を重ねることで、自信につながる。
- ・教師や保護者だけでなく、友だちにも認めてもらえる環境づくり。
- ・家庭での子どもたちとの関わり方を伝える。 → 愛情形成とコミュニケーション
- ・デジタルデトックス
  - 近年は長時間保育の利用も多く、幼い子に安易にスマホを与えている現状があるので、スマホには触れずに子どもと触れ合うことの大切さを伝える
- ・“親父の会” → 父親の育児参加を促す。キャンプ等行事参加（田植え体験）

## 2、 話し合った内容

※全体での質疑応答後、3グループに分かれて交流をもつ。

- ・父親の“手作り遊具”を作る取り組みについて。
- ・保護者が小学校入学するにあたって、感じている不安は何か。
  - 保護者同士・子ども同士の関係づくり。 → 保護者がつながるような工夫
  - 給食がしっかり食べられるか。
  - 45分間、ちゃんと話を聞けるのか。
  - 和式トイレでもきちんと用が足せるか。
  - 放課後子どもクラブと担任との連携があるのか。
- ・小学校入学までに育ててほしい10の姿（自立心や協調性など）
- ・子どもの様子の交流

## 3、 今後の課題・まとめ

- ・次年度連絡会より、園や小学校の発表は行わず、グループワークや交流に重点を置いて進める。
- ・次年度の当番校について → 第1回連絡会にて、新ローテーションを確認する。
- ・次年度の代表校について → 豊島西小学校で確定している。

# 豊島北・原田小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(3)名 幼稚園(2)名 保育所(園)(5)名 合計18名

## 1. 基調とした発表 …サブテーマに沿って、各校・園所の子どもの様子を発表

豊島北：学校全体で、『話す・聞く』ことを指導している。ペア学習や班の交流を取り入れている。

日記を書く。友達のいいところ見つけをしている。

おひさま岡町保育園：原田小からヒントを得た…話を聞くときの『あいうえお』

視覚的効果…いいところボックス(透明の箱にカードを入れていく)

アスク曾根保育園：新設の保育園。0～2歳児。生活リズムを整える。友達との関わりを見つける。

トレジャーキッズ：人数少ない。3～5歳児。きもちをことばやしぐさで表す。にこにこしてありがとう。

原田こども園：両足を揃えてしっかり聞く。〇〇です⇒文章で言う。きもちカードを使って文章で言う。

てしまこども園：友達の前に立つ練習。決まった言葉を使う練習。

曾根幼稚園：グループで話し合い。秋から当番を取り入れている。

原田小：できない子をサポート。友達の意見と自分の意見を比べるのが目標。

ひかり保育所：少人数で話し合いをする。ほかの子の話を聞いている子をほめると、真似をするようになる。

人前で話す…自分の作品にこだわったところ⇒『〇〇が気に入っています』『〇〇が好きです』

## 2. 話し合った内容

○保育園や幼稚園でいろいろ教えてもらっているのにも関わらず、小学校に入ってきて一番下に見てしまい、一から教えていて、もったいないなと感じた。

○小学校でも泣いて試したりして、言葉で伝えきれない子もいる。

○けんかの対応…話をよく聞いて、いやなことを吐き出させる。

ほかの子どもたちもその姿をまねて、友達の話を聞いてあげて、解決していけるようにする。

○具体物や興味があることに対しては集中してきくが、ざわざわしてきたら注意する場面もある。

○友だちづくり…苦手な子もいるが、全部教師が手助けするものでもない。

班で遊んだり、クラス遊びをしたりして、友だちと関わる環境をつくる。

興味のあることでつながっていく。

○給食…小学校で困らないために、30分で食べれるようにしている。

苦手なものでも1つは、食べれるようにしている。

食べる量を把握する。食べる時間の見える化。

園によって、食事の形態はさまざま→給食、お弁当、お弁当+給食

## 申し送り事項

○新しい園もはあったので、係(司会、会場、記録、めばえ)のローテーションを来年度以降の分を考え直す。

# 小曾根・北条小学校区

## 第2回幼保小連絡会 記録

テーマ 「つなげよう子どもの育ち」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えて

### 《幼・保》

- ・自分で考える、話を聞く、姿勢、あいさつをするという姿を出来るようにしてほしいのだが、難しいことも多い。
- ・最後まで話が聞けないで、途中で自分の話をしてしまう。静止するまでに時間がかかる。決められた時間内は座っていてほしいが、一人が動くとは持続できない子もいる。
- ・自分なりの自信をつけてほしい。7年前の年長さんに比べて、いろいろな場面で一年以上の違いがあるように感じる。
- ・遊びの充実。この中でも年長はイメージをふくらませながら育つ力をつけていきたい。遊びが教育とつながっている。認められる経験が大切。様々な言葉で伝えていく。
- ・45分座れない子がいてもいいのでは？幼稚園ではしっかり幼稚園での活動成長段階を大切にしながら、過ごしているほうが小学校に入ってから姿がよいこともあるのでは？
- ・劇も春から遊んできたことや経験から、導入を楽しみながら進めていくことで楽しみ、意欲的に取り組むことができる。
- ・コミュニケーション力。自分のことを自分で伝える力。(悪いこと、失敗も含め)  
「助けてほしい」「手伝ってほしい」など、
- ・困っていることを言葉で伝えられたら、解決の方法を一緒に探せる。また、困っている友達を助けてあげるときの言葉の獲得。
- ・自分の気持ちの切り替え。行事の前後にトラブルあり。小学校ではチャイムがあるので切り替えやすい。
- ・指導要録も大切だが、実際に会いに行くのが一番いい。基本はどの子も友達とのつながりを大切にクラス中心で過ごす。
- ・みんな一緒の立場だよ、と伝える。園での立ち位置平等に。

### 《小》

- ・小学校の教員が幼稚園に行き、どのように過ごしていたのかを見学する時間が大切なのは？例えば、プールの水深の違いが分かっていたら、児童に対する声かけや寄り添い方も対応できたのではないか。
- ・小学校としては、学習は学校でやっていくので、「勉強って楽しそう」「楽しみ」「うれしい」という気持ちをもって上がってきてほしい。

- ・自分の気持ちが言えるというのが、最初は確かに難しい。ちょっとしたことでも言えるように自立心、自主性を高めてほしい。
- ・自分の名前が分かればうれしいので、それはできておくと、机、ロッカー、靴箱に名前がある。記号として覚えておくだけでよい。
- ・数字が形としてわかる。同じ番号がわかる。見つけられる。
- ・自分の気持ちを伝えられる。→ 先生には言えるが友達に言えない。
- ・正直に話す。

#### 出欠確認票

施設名	参加人数
小曾根小学校	5
北条小学校	4
小曾根こども園	2
高川こども園	2
てらうちこども園	1
小曾根幼稚園	3
服部みどり幼稚園	1

# 庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】 小学校(8)名 こども園(6)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(1)名 児童発達支援センター( )名  
小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1 基調とした発表

◆2019.1.21(金) 野田小学校の多目的室にて、第2回幼保小連絡会を実施した。

◆第1回連絡会で確認したように、2つのグループに分かれ、各校園所から交流と討議を行った。

◆グループ討議(約40分)のグループ討議の後、グループから発表してもらい、共有した。

### ①「年長の子どもたちのこんな力を引き継いでほしい」

幼稚園・保育所では、「自己肯定感」を育てるために、自分たちで遊びを決める『自治活動』をしている。小学校では「学力保障」の観点から家庭学習を定着させたいが、この地域の家庭に協力を求めることには困難がある。

### ②「気になる保護者や家庭に関わる引継ぎを工夫しよう」

コミュニケーションをとることが難しい保護者(外国籍・精神疾患など)に、連絡をするために、「保護者との個人ノート」づくり、専門機関との連携を進める必要がある。

## 2 話し合った内容

### ① のグループ

幼稚園・保育所では、「先生と児童」の一対一の会話が多い傾向があり、友だちとコミュニケーションをとる経験を積まないまま小学校に行くと、本人がづらい思いをするので、自治活動などを進める際、できるだけ「友だち同士で話し合う」ことを意識している。

小学校では、日常の学級活動に加え、「学習」が入ってくるので、家庭学習を定着させるために、『家庭との連携』に注力が必要となる。

### ② のグループ

母子家庭、精神疾患、生活保護、外国籍、内縁の夫など、厳しい状況を抱える家庭が、この地域には多い。そのため、学校と家庭の連携が取りづらい。学校が連絡を取ろうと試みても、連絡を遮断する保護者もいる。また、子ども同士のトラブルが、保護者同士のトラブルに発展し、学校がふりまわされることもしばしばある。

丁寧な対応が必要な保護者に関しては、幼保小で連携して、細かい対応をすすめていきたい。

## 3 今後の課題・まとめ

●保育園、こども園、幼稚園、小学校とそれぞれの校種によって、子どもや家庭の状況は異なっている。生活や子どもたちの生き立ち、経験には大きな差があるが、小学校では一緒に生活することになる。保護者が自分のことで精一杯になり、子どもの学習のサポートまで手がまわらない状況や保護者同士、保護者と学校園所とのトラブルも見受けられる。

●目の前の子どもたちや家庭の厳しい状況は受け止め、関わるなかで、今後も家庭との連携をケースバイケースで行ない、引継ぎを大切にしたい。

# 庄内南・庄内西・千成小学校区

【参加人数】小学校(9)名 こども園(9)名 幼稚園(4)名 保育所(園)( )名 児童発達支援センター( )名  
小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1、 基調とした発表

○千成小学校の5年生(52名)と校区幼稚園・こども園の年長児(158名)との交流について

- ・3年生から児童会行事でおもてなしを経験してきたこともあり、丁寧に対応することができていたが、時間のマネジメントの面で課題があると感じた。年長児も小学校を知るとともに、ルールや順番を守って楽しく遊ぶということを学ぶことができたのではないかなと思う。来年度は6年生と1年生の関係。入学後も交流があるので、安心して入学してきてほしい。

【千成小学校】

- ・泣いて初めの2ゲームができなかった年長児に、5年生が「もう一度やってみる？」と声をかけ、担任に交渉し、遊ばせてくれていた。その年長児は「最後にやらせてもらった遊びが楽しかった。」と喜んでいて。

【せんなりこども園】

- ・交流の中で、ころがしドッジをしてもらい、遊びの工夫を学んだ。5年生の児童が丁寧に接してくれた。

【栄町こども園】

- ・配慮が必要な児童が、学校に着くまではドキドキしていたが、優しく丁寧に接してくれて安心して回ることができた。頼もしさを感じた。園でのルールとはちがう遊び方にも園児に合わせて遊んでくれていた。

【庄内こども園】

- ・あだ名で呼んでもらえることで安心していて。やさしく上手に誘ってくれていたのが印象的だった。

【庄内西こども園】

- ・初めは、わからないことがあると園の職員に聞いていたが、5年生がやさしく教えてくれたことで、園児自ら関わっていけるようになっていった。

【庄内こどもの杜幼稚園】

## 2、 話し合った内容

○各校園所の今年度の交流について

- ・庄内西こども園、庄本幼稚園の年長児と、じゃんけん列車・人数集めゲーム・手つなぎおにををして交流、その後授業見学を予定している。昨年度、自分たちが体験したことを覚えており、「自分達もそうしたい」と意欲的に準備に取り組んでいる。ぶんぶんごまのプレゼントを作り、楽しみにしている。有意義な交流にしたい。

【庄内西小学校】

- ・1年生が年長児を学校案内する予定。自分たちが使う場所を1年生なりに説明をする。

【庄内南小学校】

○新教育課程の取り組み～庄内こどもの杜幼稚園 副園長から～

- ・少子化・AIの発達を向けて20年後を生きる子どもたちを育てるために
  - ①幼稚園・保育所が大事にしてきたことを小学校にわかりやすいように
  - ②非認知(わからないことを「教えてほしい」といえる力)
- ・アプローチカリキュラム(小学校につなげるための就学前のカリキュラム)  
スタートカリキュラム(第1学年入学当初のカリキュラム)
- ・幼児教育は方向目標、小学校教育は到達目標

## 3、 今後の課題・まとめ

ゼロスタートではない『スタートカリキュラム』について、今後、意見交流ができれば、さらに交流が深められるのではないかなと感じた。

# 豊南・高川小学校区

【参加人数】小学校( )名 こども園( )名 幼稚園( )名 保育所(園)( )名 児童発達支援センター( )名 小規模保育事業施設( )名 事業所内保育事業施設( )名

## 1、 基調とした発表

## 2、 話し合った内容

○日常的にできる交流、連携をしていきたい

- ・小学校の校庭に遊びに行く
- ・イベントだけでなく普段の生活の中で、できる交流を考えていく

○幼保・こども園、小学校の大切にしているところを互いに伝え合う。

互いに知り、理解して交流していくことが大切なのではないか

(幼保・こども園より)

- ・人の話を聞けること。
- ・一日の流れ見通しがわかるよう工夫をしている(時計、タイムタイマー)
- ・自分の気持ちが出せる、相手の気持ちを聞く、少人数のグループで気持ちを出し合う
- ・5領域、カリキュラムを元に各年齢、好きなあそび、クラス活動をねらいをもって保育をしている

(小学校より)

- ・1年生になって歌が好きな子が多い。ケンカしても仲直りする力が育っている
- ・1年生、低学年の間はまじめに時間を守るが、高学年になるほど守らなくなる
- ・学習指導要領が変わってくる。一貫校の話もでている
- ・図工、絵、色塗りが好きな子が多い。生活面は1年生、丁寧にやっている。最初の頃は給食も1時間以上かかっている
- ・時計も意識している子が増えている
- ・研究テーマを元に各校、力を入れている
- ・3年生ぐらいまでは月齢差が小学校でもある

○幼保、こども園から小学校へ入学後の子どもたちの姿を知る機会が必要

- ・送り出した子どもが、小学校の新しい集団、教室に入れぬ姿を見てショックだった。
- ・クラス参観へは必ず幼保、こども園に案内をもらい、参加できるようにする。

○小学校雰囲気を知るためにも教室や施設を見る機会があると、子どもの不安感をなくすことができるのではないか。

## 3、 今後の課題・まとめ